過去の症例経験を活かし、FCM が早期治療につながった BPDCN の症例

◎菊地 菜央[1)]、齋藤 泰智[1)]、小笠原 愛美[1)]、中河 知里[1)]、髙屋 絵美梨[1)]、高渕 優太朗[1)]、宮崎 怜菜[1)]、秋田 隆司[1)]
市立函館病院 中央検査部[1)]

【はじめに】芽球形質細胞様樹状細胞腫瘍(以下 BPDCN)は、形質細胞様樹状細胞の前駆細胞に由来する予後不良で稀な疾患である。今回我々は BPDCN の症例を 2 例経験したので報告する。

【症例】症例 1：70 歳代男性。発熱、倦怠感を主訴に前医受診。採血にて WBC 高値、other60%、多臓器不全を認め当院紹介。症例 2：30 歳代男性。発熱、腹痛を主訴に前医受診。汎血球減少、リンパ節腫大を認め当院紹介。

【検査所見】症例 1：WBC3.75×10^4/μL、RBC3.9×10^6/μL、Hb12.6g/dL、Plt2.1×10^4/μL、LD9042U/L、血液像では核形不整な異常細胞を 63%認めた。骨髄像では NCC3.9×10^4/μL、MK11/μL、中型～大型で N/C 比 80%以下の核形不整な異常細胞を 13%認めた。POD 染色は陰性であった。細胞表面マーカー検査(以下 FCM)では CD2、CD4、CD5、CD56 陽性、CD3、CD7、CD19、CD34 陰性であった。病理検査の結果 BPDCN の診断となった。

症例 2：WBC2.2×10^3/μL、RBC2.74×10^6/μL、Hb9.5g/dL、Plt4.1×10^4/μL、LD338U/L、血液像では核形不整な異常細胞を 11%認めた。骨髄像では NCC1.19×10^6/μL、MK275/μL、大小不同で N/C 比 60%以上の一部細胞質辺縁不整な異常細胞を 97.6%認めた。POD 染色、Est 二重染色はともに陰性であった。FCM では CD2、CD4、CD15、CD56、CD123、CD303 陽性、CD3、CD5、CD7、CD14、CD19、CD34 陰性であった。病理検査の結果 BPDCN の診断となった。

【まとめ】症例 1 では CD123、CD303 などの BPDCN の診断に有用な抗体について検査できず、病理診断を待たざるを得なかった。症例 1 の経験を踏まえて症例 2 では形態や FCM の所見から BPDCN の可能性を考え、CD123 と CD303 について追加で検査を行った結果、BPDCN が示唆された。

BPDCN は予後不良な疾患であり、早期の治療開始が求められる。症例 2 では FCM の追加検査から BPDCN が示唆されたことで早期に治療を開始することができた。今回の 2 症例より、形態や FCM から BPDCN が鑑別に挙がった際には FCM で追加検査を行うことが早期治療に結び付くと考えられる。

連絡先：0138-43-2000 (内 3273)